


2022年7月14日



ロボット介護機器 開発事業会社による 施設導入支援のご紹介

AMED ロボット介護機器開発等推進事業（環境整備）令和4年度第一回セミナー

ロボット介護機器普及啓発のための環境整備・
エコシステム構築プロジェクトセミナー開催事務局

Agenda

1. 背景・実証サマリー
2. ロボット介護機器導入支援の考え方
3. 開発事業者の導入支援時のポイント

1. 実証内容・サマリー

実証内容

導入支援を実施している排泄予測デバイスDFreeを特別養護老人ホームへ実際に導入する過程を、インタビュー・記録シートを用いて情報を取得し導入支援のポイントを抽出した。

内容

- 機器：排泄予測デバイスDFree（トリプル・ダブリュー・ジャパン(株) 製）
- 施設：社会福祉法人永寿福社会喜連の杜
- 実証期間：2022年2月10日～年3月10日 4週間
- 情報取得手段：

● インタビュー



- ・ 施設及び現場責任者
- ・ 1回/週のペースにて実施
- ・ 導入における効果・不具合
気付きなどをインタビュー

● 記録シート



- ・ 機器使用者により記入
- ・ 1週目は日次、2週目以降より
週次にて記載
- ・ 導入における効果・不具合
気付きなどをインタビュー

実証Summary

導入支援を実施している排泄予測デバイスDFreeを特別養護老人ホームへ実際に導入する過程を、インタビュー・記録シートにより導入支援のポイントを抽出した。

■ ロボット介護機器において、「効果の実感」を施設と共創する必要がある

- ロボット介護機器は使い方や期待値について丁寧な説明が必要である
- 開発事業会社が積極的に関与し機器の理解を促進する必要がある

■ 製品説明の際には職員の機器への理解と活用モチベーションを上げる工夫が必要

- 機器の効果を知ってもらうだけでなく、効果の限界についても触れておく
- 機器の構成や原理、簡単な使用例を掲載する

■ トライアル期間を施設に任せきりにするのではなく、開発事業者が積極的に介入し支援することが重要

- 施設内において機器の使用を促進するための疑問解消や現場工夫をフォローする
- 機器の価値を実感するもしくは効果の見える化をフォローする

2. ロボット介護機器 導入支援の考え方

機器の定着に向けた導入支援の考え方

ロボット介護機器の導入では、施設内での効果的な運用が定着して初めて継続使用や次なる導入へと繋がる。そのためには試運用は機器の導入において重要な期間となる。

試運用期間で成功事例をつくり『**効果の実感**』を経て本格運用がなされる

■ 継続的な導入運用サイクル

試運用の中で正しい使い方を実践し機器本来の効果が実感できる状態



定常的に効果的な運用がなされ、次の変化の余力ができています

■ 試運用期間における障害



使いこなし

- 適切な対象者の選定
- 正しい使い方

期待値

- 過剰な期待
(ロボットという
未来的ワード)



効果の発揮に至れず諦めてしまうケースが散見される

例) 現場からのお声
「思ったよりも難しい」
「効果が限定的で使えない」



3. 開発事業者の 導入支援時のポイント

開発事業者による直接説明とフォロー

ロボット介護機器は適切な対象者に最適な使い方をしてもらうことで価値を実感してもらえる機器である。その上で代理店から購入することもあるが、対象者や使い方を適切に理解してもらうためには、開発事業者による直接説明とフォローがより効果的である。

■ 代理店と開発事業者による製品説明の違い

パターン①代理店による製品説明



メリット

- ・広範囲に対して営業を行える
- ・営業担当者のコストを抑えられる

デメリット

- ・大量の商品を扱うため製品知識にばらつきがある

パターン②開発事業者による製品説明



- ・機器の具体的事例や他施設への導入経験を用いた説明が行える
- ・細やかなフォローができる

- ・営業担当者数が限られる

開発事業会社による機器導入支援の詳細

施設への初期説明～トライアル期間を通し、粘り強いフォローアップを行うことで1つの成功体験、現場職員の「できる！」感覚を共に作り上げる。

成功事例をつくりだす

商品説明

トライアル

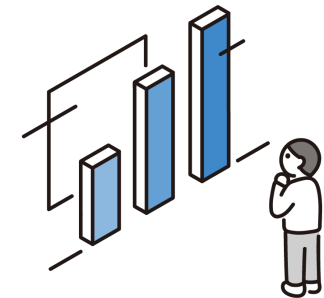
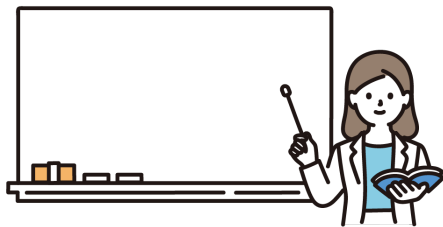


- ツールの準備
 - ✓ スライドの準備
 - ✓ 動画の準備
 - ✓ 社員教育
 - ✓ フォロー体制の準備

- 説明
 - ✓ コンテンツの充実
 - 原理・構成
 - 事例や注意事項
 - ✓ 粘り強い取り組み




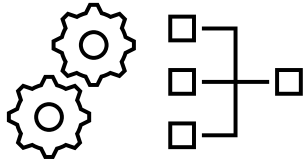


- フォローアップ
 - ✓ 随時相談受付
 - LINE・メール・電話
 - ✓ 対面での相談会

- 最終レポート
 - ✓ 効果の見える化



説明資料の推奨コンテンツ

説明する資料(スライド・動画)には以下のコンテンツを入れ込むことを推奨する。職員に製品の基本的な効果、構成・原理、使い方を正しく理解してもらうことで職員自ら試行錯誤し易くなる。加えて、うまくいかない例や機器の限界も事前に伝えることで期待値をすり合わせる。

推奨コンテンツ	 目的	 本コンテンツがもたらす効果	
	効果	機器導入の目的に対して どういった効果を得られるか、 その価値を理解してもらうこと	機器使用に対する モチベーションを上げる
	構成 & 原理	製品の仕組みを 理解することで 活用場面や活用方法を 幅広く検討すること	職員による活用場面や 活用方法の試行錯誤を 可能にする
	基本となる 使用・運用方法	まずはベースとなる使い方を 確実に理解してもらうこと	初期の活用着手への ハードルを下げる
	うまくいかない例 機器の限界	効果を発現しない事象や 機器としての限界について 理解してもらうこと	職員の機器に対する 期待値を適正にする

トライアル期間におけるフォローアップ

トライアル期間では機器を貸出して終わるのではなく貸出し期間中にフォローアップすることで、成功体験の醸成を目指す。ロボット介護機器が施設内において価値があると認識されることで、運用継続と定着へと繋がる。

成功体験が現場職員の『**使える感覚**』を養い運用の継続に繋がる

使用上の疑問解消や現場工夫を支援

成功体験の醸成

アプリ&電話



職員の側から
いつでも相談できる体制づくり

相談会



開発事業会社の側から
オープンに相談に乗る場をつくる

最終レポート



効果の見える化
やれたという実感をもってもらう

ロボット介護機器普及啓発のための環境整備・
エコシステム構築プロジェクトセミナー開催事務局

令和4年度